

講義コード	2A002011
講義名	アスレティックトレーナーの役割
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A2-2808
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	選択

**担当教員**

職種	氏名	所属
教員	◎ 吉田 隆紀	指定なし

**担当教員（実務経験を有する資格）**

吉田 隆紀〔理学療法士・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー・日本トレーニング指導者〕  
 中尾 哲也〔理学療法士・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー・日本トレーニング指導者〕  
 内田 靖之〔はり師・きゅう師・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー・日本トレーニング指導者〕  
 寺岡 祐助〔はり師・きゅう師・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー・日本トレーニング指導者〕  
 増田 研一〔医師・日本スポーツ協会公認ドクター〕

**目的**

スポーツの現場では様々な職種の間が携わっているが、その中でも特にアスレティックトレーナーの役割について講義を行う。世界各国のアスレティックトレーナーの起源や歴史的背景、選手を取り巻くサポートスタッフとの連携、組織運営と管理、倫理規定などを学習することにより、アスレティックトレーナーが担うべき任務や役割・業務について理解を深めることを目的とする。

**到達目標**

アスレティックトレーナーの活動内容を理解し、見学実習や現場実習での自らの行動をイメージできるようになる。

**授業計画表**

**ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー**

**鑑別力／問題解決能力**

**授業計画**

1. アスレティックトレーナーとは (吉田)
2. スポーツ外傷・障害の予防 (内田)
3. スポーツ現場における救急処置 (吉田)
4. アスレティックリハビリテーション (内田)
5. コンディショニング (吉田)
6. 測定と評価 (吉田)
7. 健康管理と組織運営 (中尾)
8. 各スポーツ競技の特徴とAT① (非常勤)
9. 各スポーツ競技の特徴とAT② (内田)
10. 各スポーツ競技の特徴とAT③ (非常勤)
11. 各スポーツ競技の特徴とAT④ (中尾)

12. 各スポーツ競技の特徴とAT⑤ (寺岡)
13. 医科学スタッフとの連携・協力 (増田)
14. コンディショニング 評価シートの作成 (寺岡)
15. ATの倫理 (中尾)

#### 成績の評価

定期試験の結果により評価する。

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する。

#### 自己学習

授業1コマにつき2コマ(180分)相当の予習と復習を行うこと。

スポーツ現場でのトレーナーとしての考えについて教授するため、スポーツのルールまた基本的な解剖学、生理学の知識を再度、学修すること。加えて1年生から多くのスポーツに触れて、積極的にスポーツ現場を見学することで本授業への関心を深めて学修してほしい。

#### 履修上の注意

本科目は、(財)日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目に認定されている。遅刻・欠席は原則的に日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー受験資格が認められないので、注意すること。

#### テキスト

「日本スポーツ協会公認テキスト①アスレティックトレーナーの役割」

#### オフィスアワー

吉田隆紀 水曜日と金曜日以外の12:10~13:00

#### 研究室・授業用E-mail

4号館7階 D719号室 t.yoshida@kansai.ac.jp (吉田)

講義コード	2A029011
講義名	トレーニング科学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A2-3004
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 滝瀬 定文	指定なし

#### 目的

健康・体力の維持増進及び競技スポーツにおける競技力向上を目的としたトレーニングについて、トレーニングに対する各種エネルギー供給能力や運動器の代謝調節系、構成細胞の反応に関する身体の適応メカニズムを系統的に論じ、実践的トレーニング法や評価法に関する知識と理解を深める。

#### 到達目標

健康・体力の維持増進及び競技スポーツにおける競技力向上を目的としたトレーニング法や身体のトレーナビリティの仕組みを学習する。また、指導場面におけるトレーニングの指導・実践法の理解と体力の構成要素に関する測定結果やデータの解釈、評価を行うための知識を養うことを到達目標とする。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／鑑別力

#### 授業計画

1. トレーニング科学について（体力トレーニングの基本原則）
2. 持久的運動とトレーニング
3. 間欠的運動とトレーニング
4. 循環系とトレーニング
5. 水分調節とトレーニング
6. トレーニングと疲労、休養
7. 発育発達とトレーニング
8. 女性とトレーニング
9. 加齢とトレーニング
10. トレーニングと骨密度、骨リモデリング
11. トレーニングに対する筋・骨格系のトレーナビリティ
12. 水泳・水中環境とトレーニング
13. ジュニア競技選手のトレーニング
14. スポーツ種目別トレーニング
15. まとめ

#### 成績の評価

授業毎のレポート課題（15%）、小テスト（15%）、定期試験（70%）の成績を総合的に評価する。

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。具体的には、授業毎のレポート課題や配布資料をもとに講義内容の疑問点を復習し、次回の授業までに整理しておく。また、日常のスポーツ活動やトレーニング、運動部活動で各種トレーニング法を実践し、自分自身の身体や体力・コンディショニングを考える習慣を身につけることが望まれる。

### 履修上の注意

「トレーニング指導者（JATI）」「日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー（AT）」を受験する学生は当該科目を履修しなければならない。

### テキスト

授業内容の必要に応じて資料を配布する。

### 参考資料

- ①「トレーニングによるからだの適応-スポーツ生理学トピックス-」（杏林書院）
- ②「トレーニング生理学」（杏林書院）
- ③「運動生理学のニューエビデンス」（真興交易（株）医書出版部）

### オフィスアワー

月曜日10:30～11:00

研究室・授業用E-mail

管理棟2階 講師控室

講義コード	2A037021
講義名	リハビリテーションプログラミング実習
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A2-2816
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 内田 靖之	指定なし

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

増田 研一〔医師、日本スポーツ協会公認スポーツドクター〕  
 内田 靖之〔日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー〕  
 中尾 哲也〔日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー〕  
 吉田 隆紀〔日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー〕  
 寺岡 祐助〔日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー〕

#### 目的

スポーツ現場に於ける検査／測定と評価実習、プログラミング作成実習を統合できること。

#### 到達目標

アスリートの測定と評価、スポーツに関するリハビリテーションの知識を現場で応用可能になること。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／問題解決能力

#### 授業計画

1. アスレティックトレーナーに必要な評価方法の習得
2. スポーツ動作の観察と分析
3. 競技特性に合ったコンディショニングプログラムの立案と実施
4. 傷害予防のためのアプローチ、そのための環境作りの実践
5. リハビリテーションプログラムの立案と実施
6. 企画立案とプレゼンテーション

#### 成績の評価

実習への取り組み度、後期末に行うプレゼンテーションなどをもって総合的に評価する。

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。

#### 自己学習

授業1コマについて0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

#### 履修上の注意

遅刻や欠席は原則的に認められない。特に現場実習発表会は成績の大部分を代替している部分でもあるので欠席は大幅な減点とする。やむを得ない欠席・遅刻については事前に相談すること。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目であるため、受験対象となる者の遅

刻・欠席は原則的に受験資格を得られない。

#### テキスト

日本スポーツ協会公認指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ、公認アスレティックトレーナー専門テキスト①～⑨（日本スポーツ協会）

#### 参考資料

適宜、指示する。

#### オフィスアワー

火曜日 9:00-12:00（内田）

月曜日 16:30-18:00、火曜日 15:00-17:00（吉田）

月～金曜日 12:00-13:00（中尾）

水曜日 16:30-18:00、金曜日 13:00-14:30（寺岡）

#### 研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階311研究室、uchida@kansai.ac.jp（内田）

4号館7階D719研究室、nakao@kansai.ac.jp（中尾）

4号館7階D719研究室、t.yoshida@kansai.ac.jp（吉田）

診療・研究棟3階教員室、teraoka@kansai.ac.jp（寺岡）

講義コード	2A038011
講義名	リハビリテーション概論
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A2-2107
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中尾 哲也	指定なし

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

中尾 哲也〔理学療法士、アスレティックトレーナー〕、鈴木 俊明〔理学療法士〕

#### 目的

リハビリテーションや障害の基本的概念や分類を整理し、医学的リハビリテーションの内容や方法についての知識を深めることを目的とする。

#### 到達目標

テキストに書かれている内容について理解する。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／鑑別力

#### 授業計画

1. リハビリテーションの概要（中尾）
2. 障害の捉え方（中尾）
3. 医学的リハビリテーションの概要(中尾)
4. 医学的リハビリテーションの進め方（中尾）
5. 地域リハビリテーションの概念（中尾）
6. 関節可動域測定の概要① ～ 測定および注意点 ～（中尾）
7. 関節可動域測定の概要② ～ 基本軸・移動軸・参考可動域 ～（中尾）
8. 徒手筋力測定、協調性のテスト、長さと周径の測定（中尾）
9. 日常生活動作の評価、合併症の評価（中尾）
10. 高次脳機能評価、心理的評価（中尾）
11. 理学療法 ～ 運動療法・物理療法・補装具療法 ～（中尾）
12. 作業療法・言語聴覚療法（中尾）
13. 運動麻痺の概念と評価（鈴木）
14. 運動発達・運動年齢の概念と評価（鈴木）
15. まとめ（中尾）

#### 成績の評価

定期試験により評価する。

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

試験後に模範解答を掲示する。

#### 自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

**履修上の注意**

「日本スポーツ協会公認 アスレティックトレーナー」を受験する学生は、当科目を履修しなければならない。

**テキスト**

「リハビリテーション医学」(医歯薬出版)

**オフィスアワー**

月から木曜日 12:30~13:00

**研究室・授業用E-mail**

研究室：4号館7階 D719研究室 E-mail : nakao@kansai.ac.jp

講義コード	2A060011
講義名	運動器の解剖と機能
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A2-3003
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	選択

### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 吉田 隆紀	指定なし

### 担当教員（実務経験を有する資格）

吉田 隆紀〔理学療法士・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー・日本トレーニング指導者〕

### 目的

アスレティックトレーナーという職業において体表解剖の理解は必須である。本講義では、アスレティックトレーナーが行う、選手の動作の運動学的観察、スポーツ障害の評価、原因の同定、アスレティックリハビリテーションなどのトレーナー活動に最低限必要な人体の構造と機能について理解する。そのため、運動器の骨、筋、靭帯、関節、神経支配と身体運動とを関連づけて学修することをねらいとする。

### 到達目標

アスレティックトレーナーとして、機能解剖学的な視点をもって関節運動を理解する。そしてスポーツ動作を論理的思考によって観察できるようになる。

### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門技術／鑑別力

### 授業計画

1. 運動器の解剖と機能概論①
2. 運動器の解剖と機能概論②
3. 運動器の解剖と機能概論③
4. 体幹の基礎解剖と運動 頸部
5. 体幹の基礎解剖と運動 胸部
6. 体幹の基礎解剖と運動 腰部
7. 上肢の基礎解剖と運動 肩関節①
8. 上肢の基礎解剖と運動 肩関節②
9. 上肢の基礎解剖と運動 肘関節
10. 上肢の基礎解剖と運動 手関節
11. 下肢の基礎解剖と運動 股関節
12. 下肢の基礎解剖と運動 膝関節①
13. 下肢の基礎解剖と運動 膝関節②
14. 下肢の機能解剖と運動 足関節
15. 復習

### 成績の評価

定期試験の結果により評価する。

## 定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する。

## 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

解剖学で学修した用語や運動学で使用される用語を頻回に授業の中で使用する。できるだけ授業内容と一致する部分の解剖学の予習を勧める。

## 履修上の注意

本科目は、(財)日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目に認定されている。遅刻・欠席は原則的に公認アスレティックトレーナー受験資格が認められないので、注意すること。

## テキスト

「日本スポーツ協会公認テキスト②」(日本体育協会)  
「運動器の解剖と機能」(文光堂)

## オフィスアワー

水曜日と金曜日以外の12:10~13:00

## 研究室・授業用E-mail

4号館7階 D719研究室 ・ t.yoshida@kansai.ac.jp

講義コード	2A067011
講義名	英語表現法Ⅲ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1304
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 木村 研一	指定なし

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

木村 研一〔はり師・きゅう師〕

#### 目的

西洋医学に東洋医学などの代替医療を併せて治療を行う統合医療の時代に変わりつつある。この流れは日本だけでなく、アメリカ、ドイツなど世界的に広がっている。外国の医師や鍼灸師、外国人の患者様とコミュニケーションする際にも英語力は必要不可欠である。本科目では鍼灸師にとって必要な東洋医学や解剖学の英単語や実際の臨床で用いることのできるフレーズ、FAQなどを勉強しながら英語を学ぶことを目的とする。

#### 到達目標

鍼灸に関する基礎的な英単語と英会話の習得を目標とする。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 人間力／コミュニケーション能力

#### 授業計画

1. 英会話のその前に
2. 実践フレーズ Lesson1、英単語、FAQ
3. 実践フレーズ Lesson2、英単語、FAQ
4. 実践フレーズ Lesson3、英単語、FAQ
5. 実践フレーズ Lesson4、英単語、FAQ
6. 実践フレーズ Lesson5、英単語、FAQ
7. 実践フレーズ Lesson6、英単語、FAQ
8. 実践フレーズ Lesson7、英単語、FAQ
9. 実践フレーズ Lesson8、英単語、FAQ
10. 実践フレーズ Lesson9、英単語、FAQ
11. 実践フレーズ Lesson10、英単語、FAQ
12. 実践フレーズ Lesson11、英単語、FAQ
13. 実践フレーズ Lesson12、英単語、FAQ
14. 実践フレーズ Lesson13、英単語、FAQ
15. まとめ

## 成績の評価

定期試験の試験結果により評価する。

## 定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、定期試験答案を開示する。

## 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

## テキスト

「鍼灸マッサージ師のための英会話ハンドブック」（医道の日本社）

## オフィスアワー

火曜日 12:00～13:00

## 研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階 414研究室 k.kimura@kansai.ac.jp

講義コード	2A068011
講義名	英語表現法Ⅳ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1305
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 木村 研一	指定なし

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

木村 研一〔はり師・きゅう師〕

#### 目的

本科目では鍼灸師にとって必要な東洋医学や薬膳、漢方薬に関する英単語を勉強しながら英語を学ぶことを目的とする。

#### 到達目標

鍼灸や東洋医学に関する基礎的な英単語の習得を目標とする。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／コミュニケーション能力

#### 授業計画

1. 東洋医学の歴史
2. 陰陽五行説
3. 五臓・六腑
4. 気血津液
5. 経絡・経穴
6. 鍼灸治療
7. 治療で用いる鍼
8. 肩こりの鍼治療
9. 痛みに対する鍼治療
10. スポーツ鍼灸
11. 美容鍼灸
12. 漢方薬①
13. 漢方薬②
14. 薬膳
15. 海外における鍼灸事情

#### 成績の評価

定期試験の試験結果により評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する。

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

「東洋医学で英語を学ぶ」 (医歯薬出版)

オフィスアワー

火曜日 12:00～13:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階 414研究室 k.kimura@kansai.ac.jp

講義コード	2A069011
講義名	衛生・公衆衛生学Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	衛生・公衆衛生学
科目ナンバリング	A2-4001
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー・2年
必修/選択	必修・前期1単位（講義）

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 宮本 邦彦	指定なし

#### 目的

衛生・公衆衛生学は、人間集団の健康を現実の生活環境のなかで扱う学問であり、その内容は、地域社会の組織的な努力を通して疾病を予防し、寿命を延長し、身体的・精神的健康増進をはかり、生活の質を高く保つ実践活動とそのための知識や技術を高めることである。ここでは衛生的側面と公衆衛生的側面から具体的に健康をとらえ健康増進を図るための基本的な手法や疾病の成立条件と予防法を学ぶ。

#### 到達目標

衛生・公衆衛生学の基本的な理論および疫学の方法論を理解する。また、人々の健康に影響を及ぼす様々な環境因子や主な疾病の予防対策などを理解する。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／鑑別力

#### 授業計画

1. 衛生学・公衆衛生学序論
2. 疫学1 疫学とは 疾病の把握
3. 疫学2 疫学の方法 コホート研究と症例対照研究など
4. 疾病予防と健康管理 疾病予防の段階
5. 疾病予防と健康管理 健康増進
6. 生物的環境要因 -微生物を中心に-
7. 中間試験
8. 主な疾病の予防 感染症の予防
9. 主な疾病の予防 国内の感染症
10. 主な疾病の予防 循環器系の疾患(心疾患 高血圧 脳血管)
11. 主な疾病の予防 代謝異常の疾患(糖尿病 脂質異常症、痛風)
12. 主な疾病の予防 がんの予防、腎疾患、アレルギー、不慮の事故
13. 環境保健 人間の環境、環境の評価、物理的環境、化学的環境
14. 環境保健 大気と水、廃棄物環境
15. まとめ

#### 成績の評価

定期試験の成績（45%）、中間試験成績（45%）、提出物(10%)を合わせて評価する。

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

試験終了後に模範解答を開示する。

#### 自己学習

教科書をよく読んで、授業1コマにつき45分相当の予習と復習を行うこと。

#### 履修上の注意

理解度を見るため中間試験を行う。配布資料は試験問題の範囲となるので、整理しておくこと。

#### テキスト

「シンプル衛生公衆衛生学 2019」（南江堂）

#### 参考資料

「国民衛生の動向」（厚生労働統計協会）

講義コード	2A070011
講義名	衛生・公衆衛生学Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A2-4002
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 宮本 邦彦	指定なし

#### 目的

衛生・公衆衛生学Ⅱでは、人間集団の健康保持と増進、生命の延長を図るため、生活環境の衛生や環境の管理を理解すると共に、地域保健、母子保健、学校保健、産業保健、精神保健、高齢者保健、精神保健、国際保健のステージに分けて学ぶ。また、医療福祉の制度と法規についても学ぶ。

#### 到達目標

人々の健康に影響を及ぼす様々な要因について理解し、日本の社会で実施されている保健・福祉の手法を理解し、よりよい手法として発展するために必要なことはなにかを考えることができるようになること。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／鑑別力

#### 授業計画

- 1.環境保健：衣食住の衛生
- 2.環境保健：公害・環境の管理
- 3.地域保健と保健行政・保健制度の仕組み
- 4.母子保健
- 5.学校保健
- 6.中間試験
- 7.産業保健①：職業と産業 労働災害
- 8.産業保健②：職業病 健康診断・健康増進
- 9.高齢者の保健・医療福祉①：老人の生活と健康
- 10.高齢者の保健・医療福祉②：老人保健 福祉対策・介護保険
- 11.精神保健①：精神保健の概要
- 12.精神保健②：精神保健福祉活動
- 13.国際保健医療
- 14.保健医療福祉の制度と法規
- 15.まとめ

#### 成績の評価

定期試験の成績（45%）、中間試験成績（45%）、提出物（10%）を合わせて評価する。

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を提示する。

#### 自己学習

教科書をよく読んで予習、復習をしておくこと。レポートの提出を求める。

#### 履修上の注意

理解度を見るため中間試験を行う。配付資料をよく読んで理解する。

#### テキスト

「シンプル衛生公衆衛生学2019」（南江堂）

#### 参考資料

「国民衛生の動向」（厚生労働統計協会）

講義コード	2A073011
講義名	加齢医学
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A2-2109
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	選択

### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 紀平 為子	指定なし

### 担当教員（実務経験を有する資格）

紀平 為子〔医師〕

### 目的

超高齢社会である日本において、年齢を重ねても健康で生き生きとした生活を継続することは人々の願いであり、医療の重要課題である。特に、認知症や脳血管障害、パーキンソン病などの神経変性疾患、骨粗鬆症、転倒などによる運動器障害への取り組みは、介護予防のためにも極めて重要である。さらに、健康長寿を達成する上で高血圧症、糖尿病、脂質代謝異常などの生活習慣病への対策と予防が求められている。本科目では、加齢に伴う生理的、身体的、精神的变化ならびに高齢者特有の疾患を理解し、高齢者に対して健康増進と日常生活のQOL向上をはかるため適切な介入や指導が行える医療者の養成を目的とする。

### 到達目標

加齢に伴う生理的、身体的、精神的变化ならびに高齢者特有の疾患を理解し、高齢者に対して健康維持・増進と日常生活のQOL向上をはかるため適切な介入・指導が行える。

### 授業計画表

### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

### 専門知識／鑑別力

### 授業計画

1. 高齢社会と加齢医学、加齢の機序
2. 生理的老化と病的老化
3. 高齢者の病態と疾患の一般的特徴
4. 認知症をきたす疾患
5. 意識障害・せん妄・失神
6. 歩行障害と運動生理
7. 嚥下障害と誤嚥
8. 高齢者に多い神経疾患 1
9. 高齢者に多い神経疾患 2
10. 高齢者の脳血管障害
11. 高齢者の栄養と消化器疾患
12. 高齢者に多い呼吸器疾患
13. 高齢者に多い感染症・免疫・膠原病
14. 高齢者に多い腎・泌尿器系疾患
15. 高齢者の生活機能障害の評価と介護・医療

### 成績の評価

定期試験にて評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後模範解答を開示する。

自己学習

加齢と高齢社会について多方面から自己学習し、情報収集した内容の整理と理解をすすめ、問題意識をもって講義に臨むこと。授業1コマにつき、45分相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

本科目は、健康運動実践指導者の対応科目である。

テキスト

特に指定しない。

参考資料

「老年医学テキスト(MEDICAL VIEW)」 (社団法人日本老年医学会)

オフィスアワー

月曜日 12:30～13:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階408研究室 tkihira815@kansai.ac.jp

講義コード	2A120011
講義名	健康運動実習Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A2-2809
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 竹尾 吉枝	指定なし

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

竹尾 吉枝〔健康運動指導士、介護予防主任運動指導員〕

#### 目的

有酸素運動は生活習慣病やメタボリックシンドロームの改善に有効であることが知られている。有酸素運動として一般的に行われている一つにエアロビックダンスがある。本講座ではエアロビックダンスの健康に対する効果を理解させるとともに、基本的プログラム作成上の指導指針と初級指導法の習得、および運動の楽しさを伝えられる指導者としての姿勢づくりを目標とする。また、ストレッチングの実際についても学習する。

#### 到達目標

毎時のねらいに応じた、エアロビックダンス指導に必要な基本技術や動作を実践する。またそれらと平行した講義を通じてエアロビックダンス指導に必要な基礎理論を理解する。以上を確認する課題に適宜取り組み、最終的に勤務先等で役立つよう、プログラミングと指導のロールプレイングを体験する。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門技術／実践力・対応力

#### 授業計画

1. 授業ガイダンス、エアロビックダンスの背景・特性、初級プログラムの実践
2. クラス形式と授業順序の重要性、初級プログラムの実践
3. キューイングテクニック、初級プログラムの実践
4. メインエクササイズの部分指導演習
5. 正しい姿勢と筋強化エクササイズの必要性、初中級プログラムの実践
6. エアロビックダンスの運動処方、初中級プログラムの実践
7. 指導の循環、初中級プログラムの実践
8. ウォームアップの部分指導演習
9. プログラム作成上の留意点、音楽について、中級プログラムの実践
10. 自重で行う筋力強化エクササイズの指導法、中級プログラム
11. ストレッチングの指導法、中級プログラム
12. 授業前の指導とプレゼンテーションテクニック、グループテスト練習
13. 健康運動実践指導者実技模擬試験
14. 健康運動実践指導者実技模擬試験
15. 健康運動実践指導者理論対策

#### 成績の評価

実技試験で設定した課題への到達度と授業への取り組む姿勢などで評価する。

出席点・授業への取り組み度：55%、実技試験：45%。

・小課題実技を2回実施し、1回につき10%とする。

・学期末課題実技は1回実施し、25%とする。

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

実技終了後、その評価を全体および個別に解説する。

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

授業4～5回毎に修了確認とする課題を実施する。課題の前週には練習を行い、実演の留意点の資料を配布する。その資料を参考に各自、計画的に学習することが望ましい。

#### 履修上の注意

実技授業のため、授業の全部が見学の場合は不可とする。見学・遅刻、途中退出は出席点・授業への取り組み度より減点する。

ウェアは骨格筋肉の動きがわかる大きすぎることなく動きやすい、かつ吸汗速乾性のあるものを着用すること。その他の持ち物は、室内運動用シューズ（衝撃吸収性が高く、適度な柔軟性があるものが望ましい）とタオル、スポーツドリンクなどの飲料水、講義対応の筆記用具。肩にかかる長髪は束ね、アクセサリは非装着とする。

(財)健康・体力づくり事業財団が認定する「健康運動実践指導者」を受験する学生は、当該科目を履修する必要がある。当該科目は、その養成講座、「10、エアロビック運動の理論と実際（実技）」および「11、ストレッチングの理論と実際」の内容を含む。当該科目はその養成講座の専門科目「1フィットネス・エクササイズの理論と実際」の内容を含む。

#### テキスト

「健康運動実践指導者養成用テキスト」 ((公財)健康・体力づくり事業財団)

#### 参考資料

「新エアロビックダンスエクササイズの実技指導」 ((公財)日本フィットネス協会)

#### オフィスアワー

金曜日 10：40～12：10

#### 研究室・授業用E-mail

info@genki-kyokai.com 竹尾 宛て

講義コード	2A121011
講義名	健康運動実習Ⅱ
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A2-2810
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 朝海 伯子	指定なし

#### 目的

1. 健康づくりを目的とした水中運動の理論を理解する。
2. 安全かつ効果的な水中運動を習得する。
3. 自ら見本を示せる実技能力と集団に対する運動指導を習得する。

#### 到達目標

健康運動実践指導者の指導実技試験内容（水中運動）を行えるようにする。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門技術／実践力・対応力

#### 授業計画

1. 注意事項 授業説明 水なれ 水中運動実技
2. 水中運動の理論 水中運動実技(1)
3. 水中運動の理論 水中運動実技(2)
4. 水中運動の理論 水中運動実技(3)
5. レジスタンス運動 水中運動実技(1)
6. レジスタンス運動 水中運動実技(2)
7. 指導案作成 水中運動実技 指導実技(1)
8. 指導案作成 水中運動実技 指導実技(2)
9. 水中運動実技 指導実技(1)
10. 水中運動実技 指導実技(2)
11. 水中運動実技 指導実技(3)
12. 水中運動実技 指導実技(4)
13. 水中運動実技 指導実技(5)
14. 試験日(1)
15. 試験日(2)

#### 成績の評価

試験日に水中運動（3分間）の指導実技テストを行う。技術の修得及び、説明能力・表現・指導力・適応能力を総合評価する。

試験100%

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

実技終了後、その評価を全体および個別に解説する。

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

水中運動の目的・方法を理解し、説明する練習をする。

#### 履修上の注意

水泳帽子着用・毎回出欠確認・準備運動後の遅刻は見学参加・無断退出は欠席・自動車通学禁止・見学参加はレポート提出・準備、後片付けは班ごとで行う・水着は体にフィットしたものを着用・施設への移動時、各自で安全確認すること。

なお、「健康運動実践指導者」を受験する学生は当該科目を履修しなければなりません。

#### テキスト

「健康運動実践指導者養成テキスト」( (財)健康・体力づくり事業財団)

講義コード	2A155011
講義名	社会福祉論
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1205
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 駒井 博志	指定なし

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

駒井 博志〔精神保健福祉士〕

#### 目的

多くの可能性をもつことが可能な時代になったものの、一方では、様々な理由により社会的な支援(社会福祉)を必要とする人たち(当事者とする)も多く存在する。本講では、当事者の状況を理解するとともに当事者が利用できる法や制度、支援内容に関する理解、また、支援を実践する専門職とその方法についての理解を深めることを目的とする。なお、授業は授業計画に基づいて行う予定であるが、授業の進捗状況(学生の理解・関心等)によって変更することもある。

#### 到達目標

当事者の状況や支援の枠組みや支援者、支援制度形成に至る背景・歴史について理解をし、仕事に従事した時の当事者理解を深めることができるようになること。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 人間力／倫理に基づく行動力

#### 授業計画

1. 社会福祉とは何か
2. 基本的枠組み
3. 同 上            その2
4. 最低生活保障と生活保護制度
5. 同 上            その2
6. 児童家庭と次世代育成の展開
7. 同 上            その2
8. 高齢者の生活と福祉
9. 同 上            その2
10. 障害者の支援と福祉
11. 同 上            その2
12. 実践と方法（ソーシャルワーク）の理解
13. 同 上            その2
14. 同 上            その3
15. まとめ

#### 成績の評価

定期試験（80～70%） およびミニレポート等の授業への取り組み度（20～30%）

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

#### 自己学習

講義内容の理解を深めるため、参考図書①②を利用し予習と復習を行うこと。

#### 履修上の注意

授業終了時に、当日の授業内容に関するミニレポートの提出を求めることがあるので、出席には留意すること。

#### テキスト

使用しない

#### 参考資料

①「新社会福祉とは何か（第3版）」（中央法規出版）講義の理解をさらに深めたい人は購入すること。

②「社会福祉の動向」（中央法規出版）

講義コード	2A169021
講義名	情報科学
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1106
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 中村 正信	指定なし

#### 目的

現代の社会にはおびただしい数の情報が流れているが、その中で生活し働くものとして、能率良く必要かつ有用な情報を入手しそれらを整理し分析する能力を身に付けることは大切なことである。さらに、医療従事者にとっては情報モラルや情報セキュリティも非常に重要である。今後、高度化する医療機器を扱う機会がますます増加することなどから、情報科学・情報技術の重要性を理解し、安全に活用する必要がある。

#### 到達目標

コンピュータの操作からはじめて、文章・画像情報処理・データ処理等の技術を習得する。これからの学生生活において学ぶための1つの重要なスキルを身につけることを目指す。

#### 授業計画表

##### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

##### 人間力／倫理に基づく行動力

#### 授業計画

01. 情報社会のセキュリティ、コンピュータの基本操作
02. ワードプロソフトの利用-ビジネス文章の作成
03. ワードプロソフトの利用-表でまとめる
04. ワードプロソフトの利用-図で魅せる
05. ワードプロソフトの利用-レポートの作成
06. 表計算ソフトの利用-書式で編集
07. 表計算ソフトの利用-関数を使う
08. 表計算ソフトの利用-グラフの作成
09. 表計算ソフトの利用-データベースの活用
10. 表計算ソフトの利用-効率化を図る
11. ソフトの連携
12. プレゼンテーションソフトの利用-スライドの作成
13. プレゼンテーションソフトの利用-魅力的に仕上げる
14. 総合演習
15. まとめ

#### 成績の評価

試験約60%・授業中提出物約30%・授業への取り組み度約10%

#### 自己学習

授業1コマにつき2コマ(180分)相当の予習と復習を行うこと。講義では各課題に対して授業中に完成させることを重視しているので、特にパソコン初心者は復習よりは予習を強く勧める(予

めテキストに目を通し学習内容のイメージを持つことは大変有効である)。

#### テキスト

「実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応」 (noa出版)

#### 参考資料

「情報利活用コンピュータリテラシー」 (日経BP社)

#### オフィスアワー

水曜日 (17:00～18:00)

なお希望者は予めE-mail等で連絡をとり場所を確認すること。

#### 研究室・授業用E-mail

E-mail nakamura@kansai.ac.jp

講義コード	2A171011
講義名	食品栄養学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A2-2109
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	選択

**担当教員**

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 黒木 知美	指定なし

**担当教員（実務経験を有する資格）**

黒木 知美〔栄養士、管理栄養士〕

**目的**

私たちは食事をとることによって、生命を維持し、発育・成長し、健康を保持増進している。必要な物質を体内に取り込み、利用することを栄養といい、その仕組みについて学ぶことが栄養学である。また、スポーツに関する栄養ケアマネジメントを行えるよう、対象者について幅広く理解を深めていくことを目的とする。

**到達目標**

生体内での栄養素の役割および代謝について学び、栄養学の全体像をつかむ。また自身が実施しているスポーツに応用することができる。あらゆる年齢階層、競技レベルのアスリートに対しての栄養サポートができるようスポーツ栄養士やスタッフとの連携が取れるようになることができる。

**授業計画表**

**ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー**

**専門知識／鑑別力**

**授業計画**

1. 栄養と栄養素
- 2.5 大栄養素（炭水化物、タンパク質、脂質、ビタミン、無機質）
3. 日本人の食事摂取基準
4. 消化、吸収および排泄
5. エネルギー代謝と運動
6. 食品と体の成分、身体組成
7. 運動と栄養ケア（グリコーゲンの補給と回復）
8. 栄養欠陥に基づく疾病と対策（スポーツ貧血、骨障害）
9. 病態と栄養（糖尿病）
10. 病態と栄養（脂質異常症、高血圧）
11. 病態と栄養（腎臓病）
12. 病態と栄養（貧血、脱水）
13. 病態と栄養（食物アレルギー）
14. 特定保健食品、栄養補助食品（サプリメントとエルゴジェニック）やその表示
15. ライフステージと栄養

**成績の評価**

試験（60%） レポート、ノート提出（30%） 小テスト（10%）

### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。  
授業ノートを作り、配布プリントとともに平素からまとめておくこと。

### 履修上の注意

健康運動実践指導者、JATI認定トレーニング指導者、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーを受験する学生は当該科目を履修しなければならない。

### テキスト

授業時に必要に応じてプリントを配布する。

### 参考資料

7訂 日本食品標準成分表

### オフィスアワー

金曜日 16:00-16:30

### 研究室・授業用E-mail

管理棟2階 講師控室

講義コード	2A261011
講義名	中国語Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1306
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 橋本 知佳	指定なし

#### 目的

ゼロから中国語を学ぶ学生の入門編です。まずは、基礎となる中国語の発音を徹底的に指導し、特有な簡体字や機能語及び簡単な構文法を勉強します。専門用語を取り入れた会話練習を行い、少しずつ中国語に対する興味を湧くことが授業の目的です。

#### 到達目標

中国語を勉強できる基盤を作ること、中国語を正しく発音できること、年間で学んだものを使って、簡単なコミュニケーション能力を身に付けることを目標とします。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 人間力／コミュニケーション能力

#### 授業計画

1. 中国語について、受講する際の注意点について
2. 第1課 発音 (1) 単母音と声調 音節の特殊ルール①
3. 授業の復習、会話練習、
4. 第2課 発音 (2) 複母音一重母音、三重母音、声調付け位置 音節の特殊ルール②
5. 授業の復習、会話練習
6. 第3課 発音 (3) 複母音一鼻母音
7. 母音のまとめ、リスニングの練習・確認
8. 第4課 発音 (4) 子音① 有気音と無気音 音節の特殊ルール③
9. 授業の復習、会話練習
10. 第5課 (5) 発音 (5) 子音② 音節の特殊ルール④
11. 授業の復習、会話練習、「自己紹介」作文の準備
12. ピンインの実用練習&発音確認
13. 第6課 動詞の「是shi」の基本的な使い方
14. 本文の発音練習、練習問題を解く、個別発音チェック
15. 期末まとめ復習

#### 成績の評価

期末試験及び課題作り・宿題の提出、発表の成績などにより総合的に評価する。

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

レポートを提出後、定期試験終了後に模範解答を開示する。

#### 自己学習

事前にテキストの内容を確認し、授業を受ける条件として、教科書を持参すること。

履修上の注意

授業中に説明する。

テキスト

関西医療学園専用「中国語入門テキスト」CDなし

参考資料

必要な時、授業中に指示する。

講義コード	2A262011
講義名	中国語Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1306.1
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 橋本 知佳	指定なし

#### 目的

中国語Ⅰに続く学習です。条件として、中国語のピン音が発音できる学生を対象に（確認テストあり）、現場で簡単に活用できる会話や役立つ表現を学び、相手に明確に、簡潔に、安心感に与えるようなコミュニケーション能力を上げることが目的です。

#### 到達目標

中国語を正しく発音できるよう、現場で使える簡単な会話や専門用語を覚え、中国語の学習の基盤を作っておく事が目標とする。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 人間力／コミュニケーション能力

#### 授業計画

1. 到達度、受講する際の注意点について、確認テスト
2. 中国語Ⅰのおさらい
3. 第7課 動詞述語&形容詞述語
4. 本文“初診” 応用練習
5. 本文の朗読発表 練習問題を解く、提出
6. 第8課 相手の状況を尋ねる“問診”
7. よくある症状 人体部位
8. 本文の朗読発表 練習問題を解く、提出
9. 第9課 “診察時の体位を指示する”
10. 方位詞 複合練習
11. 前置詞 複合練習
12. 本文の朗読発表 練習問題を解く、提出
13. 第10課 治療について
14. 実践会話演習
15. 期末まとめ復習

#### 成績の評価

定期試験及び課題作り・宿題の提出、発表の成績などにより総合的に評価する。

#### 自己学習

事前にテキストの内容を確認し、授業を受ける条件として、教科書を持参すること。

#### 履修上の注意

授業時に説明する。

テキスト

関西医療学園専用「中国語入門テキスト」はり灸・スポーツトレーナー学科用 CDなし

参考資料

必要な時、授業中に指示する。

講義コード	2A267021
講義名	東洋医学各論Ⅰ（四診）
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A2-4104
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 王 財源	指定なし

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

王 財源〔はり師・きゅう師〕

#### 目的

中国伝統医学を基軸とする東洋医学には「方証一致」の法則がある。つまり、四診を通じて病状を的確に把握し、「病証」（弁証）を明らかにすることにある。本講義では、1年次、東洋医学総論で学んだ基礎理論を再度復習し、臨床現場で必要となる弁証や診断と結びつける。その実践方法について学ぶ。

#### 到達目標

鍼灸の発祥や、伝統医学の歴史的変遷を通じて、古代中国の医家らにより成立した、東洋医学の基礎理論にある気血や蔵府（臓腑）、経絡に対する概念を身につけ、それらを四診とつなぎ合わせるための具体的な知識を養うことで、八綱や、経絡、臓腑弁証の応用能力を育て実践に役立てる能力を身につけることを目標にする。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／鑑別力

#### 授業計画

1. 中国古代の人間観
2. 気の思想と人体との関係
3. 陰陽五行論と人体の関係
4. 気、血、津液、精の働き
5. 気血と経絡の関係
6. 経絡の働きと経穴
7. 中医蔵府学  
【肝の生理と病理】
8. 中医蔵府学  
【心の生理と病理】
9. 中医蔵府学  
【脾の生理と病理】
10. 中医蔵府学  
【肺の生理と病理】
11. 中医蔵府学  
【腎の生理と病理】
12. 臓腑間相関理論  
(臓腑間病証と五行循環)

- 13. 臓腑経絡相関理論  
(経絡循環と五行循環)
- 14. 中医診断学  
【四診における基礎知識】
- 15. 中医診断学  
【弁証学と診断学】

#### 成績の評価

定期試験90%・レポート10%にて評価する。

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

1. 定期試験終了後に試験の模範解答を開示する。
2. 定期試験、レポートの解説を実施する。

#### 自己学習

1. 1年次で学んだ診断学や蔵府学を基軸に、病証の発生機序や治療理論について理解を深めること。
2. 脈診（脈差）の実践と舌診を積極的に行うこと。
3. 授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

#### 履修上の注意

1. 講義の進行状況に合わせて授業内容が前後することがある。
2. レポート評価は出題テーマと一致したもので、新しい発見があり、さらにそれらを公的な出版物（学術誌）を介して検証できたものが望ましい。ネットや書籍よりのコピーが必要な場合は引用先を明確にし、出題テーマとの整合性を鑑みておくこと。

#### テキスト

「新版東洋医学概論」（医道の日本社）

#### 参考資料

- 「わかりやすい臨床中医診断学」第2版（医歯薬出版）
- 「入門・目でみる臨床中医診断学」（医歯薬出版）
- 「わかりやすい臨床中医臓腑学」第3版（医歯薬出版）
- 「漢方用語大辞典」（燎原書店）
- 「経筋・経別・奇経診療」臨床運用と理解（厚生社）

#### オフィスアワー

木曜日 12:30～14:00

面談時には事前にメールで連絡すること。

#### 研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4F 413号室研究室 cai@kansai.ac.jp

講義コード	2A268021
講義名	東洋医学各論Ⅱ（基礎弁証）
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A2-4105
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 王 財源	指定なし

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

王 財源〔はり師・きゅう師〕

#### 目的

疾病の構造を伝統医学的に病態別分類（弁証）することを目的に、弁証と弁病の関係を「四診」による情報を用いて分析し、下記、5項目の「証」を決定する能力を習得する。

- ①八綱弁証
- ②病邪弁証
- ③気血弁証
- ④臓腑弁証
- ⑤経絡弁証

#### 到達目標

異なった病因病機は弁証を行う上で重要なカギを握る。本講義では弁証と弁病の考え方を実践的に取り組むために具体的な弁証・処方・配穴といった治療概念を育てる。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／鑑別力

#### 授業計画

1. 総論 四診と証候分析
2. 中医診断学【望診法】
3. 中医診断学【聞診法】
4. 中医診断学【問診法】
5. 中医診断学【切診法】
6. 中医診断学  
【舌診と病証の関係】
7. 中医診断学  
【脈診と病証の関係】
8. 中医診断学  
【腹診と病証の関係】
9. 『難経』六十九の臨床運用
10. 『難経』六十九の臨床運用による配穴
  11. 八綱弁証  
【寒熱、虚実より八綱を考察する】
  12. 八綱弁証  
【気血、寒熱、陰陽より八綱を考察する】

- 1 3. 臓腑弁証
- 1 4. 経絡弁証
- 1 5. ケーススタディ (具体的な症例を検討する)

#### 成績の評価

定期試験90%・レポート10%評価

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

1. 定期試験終了後、レポート提出後に試験り模範解答を開示する。

#### 自己学習

1. 具体的な証候分析を現代医学的な病名より「理論」「法則」「処方」「配穴」「施術法」の原則に基づいた、中医学的に疾患の発生機序や治療理論について理解を深めること。
2. 脈診(脈差)の実践と舌診を積極的に行うこと。
3. 授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

#### 履修上の注意

レポート評価は出題テーマと一致したもので、新しい発見があり、さらにそれらを公的な出版物を介して検証できたものが望ましい。ネットや書籍よりのコピーが必要な場合は引用先を明確にし、出題テーマとの整合性を鑑みておくこと。

#### テキスト

「新版東洋医学概論」(医道の日本社)

#### 参考資料

- 「わかりやすい臨床中医臓腑学」第3版(医歯薬出版)
- 「わかりやすい臨床中医診断学」第2版(医歯薬出版)
- 「わかりやすい臨床中医実践弁証トレーニング」第2版(医歯薬出版)
- 「経筋・経別・奇経診療」(厚生社)

#### オフィスアワー

木曜日 12:30~14:00

面談時には事前にメール連絡すること。

#### 研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4F 413号室研究室 cai@kansai.ac.jp

講義コード	2A297011
講義名	病因・病態学Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A2-2101
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	必修

**担当教員**

職種	氏名	所属
教員	◎ 畑村 育次	指定なし

**担当教員（実務経験を有する資格）**

畑村 育次〔医師〕

**目的**

疾病の正しい理解、診断と治療のために、人体の疾病の成因（Etiology）、さらにどのような過程で人体に病気を発症させるかという発生機序（Pathogenesis）を理解し、これらに基づき人体機能の異常と形態の異常の関連について正しい知識を身につけることを目的とする。

**到達目標**

本講義では各種疾病の病因や病態について基礎的な理解ができること、さらに自ら考える能力を養うことを目標とする。このような疾病の原因や病態の科学は、病理学と呼ばれる領域において研究発展させられてきたものであり、西洋医学的な視点から疾病を理解するための基礎として、特に病理学概論について講義を行う。

**授業計画表**

**ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー**

**専門知識／鑑別力**

**授業計画**

1. 疾患の内因 1
2. 疾患の内因 2
3. 疾患の外因 1
4. 疾患の外因 2
5. 細胞の損傷、虚血、低酸素、萎縮と変性（1）
6. 細胞の変性（2）
7. 老化と加齢
8. 黄疸、肥大、過形成、再生
9. 創傷治癒、化生、壊死、アポトーシス
10. うっ血、充血、浮腫
11. 脱水、ショック、出血
12. 血栓、塞栓、DIC1
13. 血栓、塞栓、DIC2
14. 炎症基礎1
15. 模擬試験

**成績の評価**

定期試験 100%

**定期試験、レポート等に対するフィードバック**

定期試験終了後に模範解答を開示する。

### 自己学習

病理学は、解剖学や生理学、生化学などの知識の上に成り立っている。従って、これらについて、よく復習をしておくことが必要となる。また授業に臨むにあたっては授業レジュメをあらかじめ読み、授業後その日のうちに復習し、一週間後に確認テストの復習をすること。自己学習時間については授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

### テキスト

授業レジュメを配る。  
「病理学概論」医歯薬出版

### 参考資料

「ロビンス基礎病理学」（廣川書店）  
「標準病理学」（医学書院）  
「わかりやすい病理学」（廣川書店）  
「イラスト病理学」（文光堂）  
「ゼットイわかる病理写真の読み方」医学教育出版社）  
「病理組織の見方と鑑別診断」（医歯薬出版）  
「シンプル病理学」（南江堂）

### オフィスアワー

木曜日 12:00-13:00

### 研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階402研究室 i-hatamura@kansai.ac.jp

講義コード	2A298011
講義名	病因・病態学Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A2-2102
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 畑村 育次	指定なし

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

畑村 育次〔医師〕

#### 目的

人体において、疾病がどのような原因により発生し、また、どのような過程を経て病的変化が形成されていくかを知ることは、疾病の本質を理解する上で重要なことである。このような疾病の原因や病態の科学は、病理学と呼ばれる領域において研究発展させられてきたものであり、西洋医学的な視点から疾病を理解するための基礎として、疾患の病因・病態を理解する

#### 到達目標

この講義では病因・病態Ⅰの続きおよび各疾患の病因・病態について基本的な講義を行い、前期で学んだことをさらに発展させ疾患の基礎的理解を深める。各種疾病の病因や病態について、理解ができるようにするとともに、自ら考え得る能力を養うことをも目標とする。本講義では各種疾病の病因や病態について基礎的な理解ができること、さらに自ら考える能力を養うことを目標とする。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／鑑別力

#### 授業計画

1. 炎症各論 1
2. 免疫の基礎 1
3. 免疫の基礎 2
4. 免疫 1
5. 免疫 2
6. インフルエンザ
7. 免疫異常・アレルギー
8. 自己免疫疾患 1
9. 自己免疫疾患 2・臓器移植
10. 腫瘍 1
11. 腫瘍 2
12. 腫瘍 3
13. 先天性疾患と遺伝性疾患 1
14. 先天性疾患と遺伝性疾患 2
15. 模擬試験

#### 成績の評価

定期試験 %

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する

自己学習

病理学は、解剖学や生理学、生化学などの知識の上に成り立っている。従って、これらについて、よく復習をしておくことが必要となる。また授業に臨むにあたっては授業レジュメをあらかじめ読み、授業後その日のうちに復習し、一週間後に確認テストの復習をすること。自己学習時間については授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

毎回授業レジュメを配る。  
「病理学概論」（医歯薬出版）

参考資料

「ロビンス基礎病理学」（廣川書店）  
「標準病理学」（医学書院）  
「わかりやすい病理学」（廣川書店）  
「イラスト病理学」（文光堂）  
「ゼットイわかる病理写真の読み方」医学教育出版社）  
「病理組織の見方と鑑別診断」（医歯薬出版）  
「シンプル病理学」（南江堂）

オフィスアワー

木曜日 12:00-13:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階402研究室i-hatamura@kansai.ac.jp

講義コード	2A398011
講義名	鍼灸理論Ⅱ（応用）
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A2-4103
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	必修

**担当教員**

職種	氏名	所属
教員	◎ 木村 研一	指定なし

**担当教員（実務経験を有する資格）**

木村 研一〔はり師・きゅう師〕

**目的**

1年次の鍼灸理論Ⅰで学んだ「鍼灸刺激が生体にどのように受容されるのか」をベースとして、鍼灸刺激が生体にどのような影響を与えるのか、鍼灸治療の効果がどのようなメカニズムで出現するのかについて、生理学や免疫学などにに基づき考えることが中心となる。

**到達目標**

鍼灸理論Ⅰの内容を踏まえ、鍼灸の治効理論を、科学的な側面から理解し、修得することを最低限の到達目標とする。

**授業計画表**

**ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー**

**専門知識／鑑別力**

**授業計画**

1. 2. 鍼灸治効の基礎 (5) 鍼灸刺激と反射
2. 2. (6) 鍼鎮痛①
3. 2. (6) 鍼鎮痛②
4. 2. (6) 鍼鎮痛③
5. 2. (6) 鍼鎮痛④
6. 2. (7) 刺激と反応
7. 3. 鍼灸療法の一般治効理論(1) 自律神経に及ぼす鍼灸刺激の影響①
8. 3.(1) 自律神経に及ぼす鍼灸刺激の影響②
9. 3. (1) 自律神経に及ぼす鍼灸刺激の影響③
10. 3. 鍼灸療法の一般治効理論 (2) 生体防御機構に及ぼす鍼灸刺激の影響①
11. 3. (2) 生体防御機構に及ぼす鍼灸刺激の影響②
12. 3. (2) 生体防御機構に及ぼす鍼灸刺激の影響③
13. 3. (3) 鍼灸刺激と神経系・内分泌系・免疫系の相互作用
14. 4. 関連学説①
15. 4. 関連学説②

**成績の評価**

評価は定期試験の成績によってのみ評価する。

**定期試験、レポート等に対するフィードバック**

定期試験終了後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行なうこと。

テキスト

「はりきゅう理論」（医道の日本社）

参考資料

「図解鍼灸療法技術ガイドⅠ」（文光堂）

「鍼灸臨床最新科学」（医歯薬出版）

オフィスアワー

火曜日（12:00～13:00）

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階414研究室, k.kimura@kansai.ac.jp

講義コード	2A406011
講義名	バイオメカニクス
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A2-3005
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 石川 昌紀	指定なし

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

小田 啓之

#### 目的

各種スポーツにおける競技力は、スポーツ動作の巧拙や動作パワーの大小に大きく依存する。本講義の目的は、スポーツバイオメカニクスの観点から「動き」や「力」に関する研究に触れ、スポーツ動作の成り立ちについて理解することを目指す。身運動の基本動作および競技スポーツの特異的な動作についてバイオメカニクスの観点から理解することを目指す。

#### 到達目標

本講義での目標は、身運動の基本動作である歩・走・跳・投・泳・滑動作の仕組みについて理解できる。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／鑑別力

#### 授業計画

1. バイオメカニクスイントロダクション
2. 身体構造・骨格筋の特性
3. 骨筋の特性・回転運動
4. 反動利用と身体運動
5. 歩く・走る 1
6. 歩く・走る 2
7. 跳ぶ 1
8. 跳ぶ 2
9. 中間試験
10. 投げる
11. 打つ
12. 蹴る
13. 泳ぐ
14. 滑る
15. スポーツの競技力に関わるバイオメカニクス知見

#### 成績の評価

中間試験と期末試験で評価する。

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験、レポートの解説を実施する。

## 自己学習

授業1コマにつきコマ（45分）相当の予習と復習を行なうこと。特に、授業計画のトピックについて、ネットを利用して情報を収集して予習してくること。

## 履修上の注意

講義内で指示する。

なお、JATI認定トレーニング指導者、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーを受験する学生は当該科目を履修しなければならない。

## テキスト

講義内で配布する資料

## 参考資料

「スポーツバイオメカニクス入門」（杏林書院）

「スポーツバイオメカニクス」（朝倉書店）

## オフィスアワー

月曜日<sup>1</sup>限目

研究室・授業用E-mail

管理棟2階 講師控室

講義コード	2A407011
講義名	スポーツ医学Ⅰ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A2-2115
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 田中 雅博	指定なし
教員	増田 研一	指定なし

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

増田 研一〔医師、日本スポーツ協会公認スポーツドクター〕

田中 雅博〔医師、日本スポーツ協会公認スポーツドクター〕

#### 目的

スポーツ活動に起因する各種外傷・障害の基礎的知識を習得すること。

#### 到達目標

上記に同じ。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／鑑別力

#### 授業計画

1. スポーツ外傷・障害総論
2. 体幹のスポーツ外傷・障害①頸部
3. 体幹のスポーツ外傷・障害②腰部・背部・骨盤
4. 上肢のスポーツ外傷・障害①肩関節
5. 上肢のスポーツ外傷・障害②肘関節
6. 上肢のスポーツ外傷・障害③手関節・手
7. 下肢のスポーツ外傷・障害①大腿
8. 下肢のスポーツ外傷・障害②膝関節
9. 下肢のスポーツ外傷・障害③下腿
10. 下肢のスポーツ外傷・障害④足・足関節
11. 重篤な外傷
12. その他の外傷
13. 年齢・性別による特徴
14. メディカルチェック
15. 予備

#### 成績の評価

後期試験期間中に施行するマークシート方式の試験。

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行なうこと。現場実習の際の基礎知識となるので、特に復習を確実に行うこと。

#### 履修上の注意

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目に認定されているので、遅刻・欠席は認められない。

#### テキスト

「日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト③」（日本体育協会）。  
テキストは毎回使用する。

講義コード	2A408011
講義名	スポーツ心理学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A2-2114
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 堀川 雅美	指定なし

#### 目的

スポーツと心の関係を科学的・合理的アプローチから理解すること。

#### 到達目標

スポーツにおける心に関わる問題がパフォーマンスに及ぼす影響を理解できること。  
 スポーツへの動機づけやコーチングの原理・原則を理解できること。  
 これらの知識をアスレティックトレーナーとして役立てられること。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／鑑別力

#### 授業計画

1. オリエンテーション・スポーツ心理学の内容
2. スポーツスキルの制御と学習 1
3. スポーツスキルの制御と学習 2
4. スポーツスキルの効果的な学習法
5. スポーツの動機づけ
6. スポーツと発達
7. スポーツマンの性格と態度 1
8. スポーツマンの性格と態度 2
9. スポーツと心の健康
10. スポーツにおける「あがり」
11. ストレス・ストレスマネジメント
12. メンタルトレーニング
13. スポーツ集団の構造と機能
14. スポーツカウンセリング・コーピングの心理
15. 前期のまとめ

#### 成績の評価

定期試験70%・課題20%・授業への積極的な取り組み10%で評価する。

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）の予習と復習を行なうこと。具体的には、毎回テキストの該当トピックを通読・予習をすること。毎回授業内容のまとめ・整理などの復習を行うこと。

## 履修上の注意

本科目は（財）日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの専門科目に認定されている。  
遅刻・欠席は原則的に受験資格が認められないので、十分注意すること。

## テキスト

「やさしい学生トレーナーシリーズ・新スポーツ心理学」（嵯峨野書院）

## 参考資料

「健康・スポーツの心理学・フィットネスシリーズ2」（建帛社）

「スポーツメンタルトレーニング教本」（大修館書店）

「スポーツ心理学ハンドブック」（実務教育出版）

## オフィスアワー

木曜日 授業終了後

## 研究室・授業用E-mail

horikawa@kwansei.ac.jp

講義コード	2A409011
講義名	スポーツリハビリテーションⅠ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A2-3006
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	選択

### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中尾 哲也	指定なし

### 担当教員（実務経験を有する資格）

中尾 哲也〔アスレティックトレーナー、理学療法士〕

### 目的

様々なスポーツ傷害に対する病態とリスク管理を把握し、身体機能障害に対する検査・測定の基礎的知識と技術を深めることを目的とする。

### 到達目標

テキスト記載内容について理解する。

### 授業計画表

### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

### 専門知識／鑑別力

### 授業計画

1. アスレティックトレーナーに必要な評価①
2. アスレティックトレーナーに必要な評価②
3. アスレティックトレーナーに必要な評価③
4. アスレティックトレーナーに必要な検査測定① ～ 姿勢・アライメントの観察 ～
5. アスレティックトレーナーに必要な検査測定② ～ 関節可動域・柔軟性の検査測定 ～
6. アスレティックトレーナーに必要な検査測定③ ～ 機器を用いた筋力・パワー・筋持久力測定 ～
7. アスレティックトレーナーに必要な検査測定④ ～ 全身持久力・敏捷性の検査測定 ～
8. アスレティックトレーナーに必要な検査測定⑤ ～ 一般的な体力測定 ～
9. スポーツ動作の観察と分析① ～ 歩行・走動作 ～
10. スポーツ動作の観察と分析② ～ ストップ動作 ～
11. スポーツ動作の観察と分析③ ～ 跳動作（1） ～
12. スポーツ動作の観察と分析④ ～ 跳動作（2） ～
13. スポーツ動作の観察と分析⑤ ～ 投動作（1） ～
14. スポーツ動作の観察と分析⑥ ～ 投動作（2） ～
15. スポーツ動作の観察と分析⑦ ～ あたり動作 ～

### 成績の評価

講義最終日の理論試験により評価する。

### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

試験後に模範解答を提示する。

### 自己学習

授業1コマにつき2コマ(180分)相当の予習と復習を行うこと。

#### 履修上の注意

「日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー」を受験する学生は、当科目を履修しなければならない。

#### テキスト

「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑤ 検査・測定と評価」(日本スポーツ協会)

#### 参考資料

「公認アスレティックトレーナー 専門科目テキストワークブック 検査・測定と評価」(文光堂)、「新・徒手筋力検査法」(協同医書出版社)

#### オフィスアワー

月～木曜日 12:30～13:00

#### 研究室・授業用E-mail

研究室：4号館7階 D719研究室 nakao@kansai.ac.jp

講義コード	2A411011
講義名	予防とコンディショニングⅠ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A2-2112
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 内田 靖之	指定なし

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

内田靖之〔日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー〕  
寺岡祐助〔日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー〕

#### 目的

コンディショニングは競技スポーツにおいて欠かすことの出来ない概念である。しかしながら、競技成績のみを追いかけることは傷害のリスクを高めていることと同義である。本講義・実習では競技力の健全な発揮を求めるコンディショニングと傷害リスクの除外である予防をどのように組み合わせる選手へ処方していくか、基礎を高めることを目的とする。

#### 到達目標

競技力向上のトレーニングと予防目的のトレーニングをどのように考えるか、思考力の獲得を目指す。また予防の手段の一つであるテーピング技術の習得を目指す。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／鑑別力

#### 授業計画

1. コンディショニングのとらえ方
2. トレーニングによる身体適応
3. コンディショニングの要素
4. テーピング実技：足部
5. テーピング実技：足関節①
6. テーピング実技：足関節②
7. テーピング実技：下腿部
8. テーピング実技：膝関節
9. テーピング実技：大腿部、股関節
10. テーピング実技：腰部、胸部、肩関節
11. テーピング実技：肘関節
12. テーピング実技：手関節、指
13. テーピング実技：キネシオテーピング
14. テーピング実技検定①
15. テーピング実技検定②

#### 成績の評価

定期試験45%、テーピング検定45%、講義・実習に取り組む姿勢10%から総合的に評価する。

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案を開示する。

### 自己学習

テキストにテーピングの巻き方は載っているが、人の形状は千差万別である。解剖学的な構造を理解してこそテーピングの技術が生きてくるので、体表解剖学の理解が重要である。

授業1コマについて0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

### 履修上の注意

本科目は（財）日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目、及びJATIトレーニング指導者一般科目に認定されています。双方の受験対象となる者の遅刻・欠席は原則的に受験資格を得られません。やむを得ない欠席・遅刻について事前にわかるものは相談して下さい。尚、欠席した場合レポートを代替として提出させることがあります。

### テキスト

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門テキスト⑥予防とコンディショニング（日本スポーツ協会）

### 参考資料

適宜、指示する。

### オフィスアワー

火曜日 9:00-12:00（内田）

水曜日 16:30-18:00、金曜日 13:00-14:30（寺岡）

### 研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階311研究室、uchida@kansai.ac.jp（内田）

診療・研究棟3階教員室、teraoka@kansai.ac.jp（寺岡）

講義コード	2A412011
講義名	臨床医学Ⅰ（医学総論）
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A2-2103
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	必修

### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 近藤 哲哉	指定なし

### 担当教員（実務経験を有する資格）

近藤哲哉 [医師]

### 目的

病歴聴取（問診）、身体所見の診察、検査診断→患者の全体像を把握し医師と適切に連携できる能力を養うこと。

### 到達目標

特殊な器具を使わずに診断を行う技術、医師への受診が必要な状態かの判断、緊急で受診する必要があるのかの判断、医師との連携、医師にも受診している患者の話す内容の理解。

### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／鑑別力

#### 授業計画

1. 歩行姿勢、体格、頭蓋
2. 顔貌、呼吸
3. 脈拍、血圧、体温、意識
4. 救急、皮膚
5. 浮腫、リンパ、弱者、知能、感情
6. 運動失調、不随意運動
7. 筋緊張、髄膜刺激症状、上肢近位
8. 上肢遠位、背部、腰下肢
9. 眼、耳
10. 鼻、口
11. 顔面、脊髄、感覚障害
12. 頸部内臓、胸部内臓
13. 腹部内臓、検査総論、検尿、検便、血計検査
14. 電解質検査、肝機能検査、腎機能検査、感染症炎症検査、生化学その他、髄液検査
15. 生理学的検査、画像診断、心理検査、治療総論、薬物

### 成績の評価

[1] 4択問題の問題集を講義中に配ります。期末試験には、その選択肢を入れ換えたマークシート問題を出します。(80点満点)  
 [2] 講義中に小テストなどを行い学習に対する態度を調べることがあります。(20点満点)  
 以上を合計し、60点以上になれば合格です。追再試験は [1] のみ行います。

### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

#### 履修上の注意

開始時から終了時までの間に一度だけ座席についているか否かで出欠を調べます。その際不在であれば、その回は欠席となります。

質問がある場合、挙手がCメールか電話をして下さい。講義以外の時刻に質問がある場合は、下記にメールして下さい。

#### テキスト

「ベッドサイドの神経の診かた 18版」（南山堂）2016

#### 参考資料

なし

#### オフィスアワー

月曜日9:00～12:00

#### 研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階303研究室 kondo0724538409@kansai.ac.jp

講義コード	2A413011
講義名	臨床医学Ⅱ（外科系）
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A2-2104
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 小畑 淳	指定なし

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

小畑 淳〔医師〕

#### 目的

鍼灸施術の適応となる整形外科疾患の知識を得る。

#### 到達目標

整形外科医と同等レベルの知識の修得。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／鑑別力

#### 授業計画

1. 整形外科学とは
2. 頸椎疾患
3. 胸椎疾患
4. 腰椎疾患
5. 肩関節疾患
6. 上肢の疾患
7. 手の疾患
8. 股関節疾患
9. 膝関節疾患
10. 下肢の疾患
11. 足の疾患
12. 神経疾患・筋疾患
13. 運動器疾患のリハビリテーション
14. まとめ
15. テスト

#### 成績の評価

定期試験	80%
レポート	10%
小テスト	10%

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後のレポートを開示する。

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。特に学習範囲が広いので予習が肝要である。

テキスト

「臨床医学各論」(医歯薬出版)

参考資料

「標準整形外科学」(医学書院)

オフィスアワー

水曜日 12:30~13:00

講義コード	2A414011
講義名	疼痛動作の運動学
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A2-3002
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	必修

**担当教員**

職種	氏名	所属
教員	◎ 北川 洋志	指定なし

**担当教員（実務経験を有する資格）**

北川 洋志〔はり師・きゅう師〕

**目的**

鍼灸治療とは、多くの運動器慢性疼痛に対して鎮痛を目的として行う治療法である。運動器に発生した発痛構造を発痛動作から検索するためには、動作を構成する各関節の構造や筋や靭帯などの軟部組織の仕組みを理解しておく必要がある。そのため、本講義では動作時における関節の動きや、その時に働く筋や靭帯などを理解し、動作から発痛構造を推測していくための知識を身につけることを目的とする。

**到達目標**

「痛みの発生源を刺激すると発痛/疼痛増悪する」という原則に基づいて、訴えられた発痛/疼痛増悪動作を解剖学的・運動学的な視点をもって理解し、発痛構造を推測できるようになる。

**授業計画表**

**ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー**

**専門知識／専門技術**

**授業計画**

1. 疼痛動作の運動学概論
2. 股関節の運動学①
3. 股関節の運動学②
4. 膝関節の運動学
5. 足関節の運動学
6. 肩関節の運動学①
7. 肩関節の運動学②
8. 肘関節の運動学
9. 手関節の運動学
10. 体幹の運動学①
11. 体幹の運動学②
12. 身体動作の機能解剖①
13. 身体動作の機能解剖②
14. 運動連鎖と評価①
15. 運動連鎖と評価②

**成績の評価**

期末試験70%・小テスト30%にて評価

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する。  
成績発表後、採点後の定期試験答案を開示する。

### 自己学習

授業で取り扱う各関節の構造や動き、筋の起始・停止・作用について、授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

### テキスト

「解剖学 (第2版)」 (医歯薬出版)

### 参考資料

適宜、講義中に紹介する。

### オフィスアワー

木曜日 12:10~12:40

### 研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階教員室 kitagawa@kansai.ac.jp

講義コード	2A415011
講義名	臨床心理学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A2-2111
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 伊東 弘美	指定なし

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

伊東 弘美 [臨床心理士、公認心理師]

#### 目的

対人援助職の基本となる対人関係理解と受容的態度について学ぶ。

#### 到達目標

臨床場面における患者－援助者関係を常に念頭に置き、対人関係を多角的な視点から捉えられるようになることを目指す。医療、福祉、教育現場での臨床実践を活かした講義・実習を通して、理論学習よりも自他の理解・気づきに重きを置く。コミュニケーション及び心理検査については、グループワークや実習を通して理解を深める。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／鑑別力

#### 授業計画

- 1 オリエンテーション：対人援助職とは
- 2 心理的適応・不適応のメカニズム 1) 葛藤仮説
- 3 心理的適応・不適応のメカニズム 2) 精神分析理論
- 4 心理的適応・不適応のメカニズム 3) 防衛機制
- 5 コミュニケーションの定義・分類
- 6 対人援助職のコミュニケーションスキル
- 7 コミュニケーションの障害と病理
- 8 対人関係における知識・理解
- 9 対人関係における共感的理解
- 10 心理検査法
- 11 心理検査法実習
- 12 無意識とコンプレクス
- 13 心理療法
- 14 患者役割行動の心理と治療者
- 15 まとめ

#### 成績の評価

試験は行わず期末レポートにより評価する。

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

レポートの解説を実施する。

## 自己学習

授業1コマあたり2コマ相当(180分)の自己学習が必要。特に復習を重視すること。

## テキスト

授業時間内にプリントを配布する。

## 参考資料

「ナースのための心理学」(金子書房)

「心とかかわる臨床心理」(ナカニシヤ出版)

## オフィスアワー

月曜日 16:20~16:50

## 研究室・授業用E-mail

管理棟2F非常勤講師控室

講義コード	2A419011
講義名	社会学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1204
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 木村 弘之	指定なし

#### 目的

講義では、「社会学的なもの見方」について説明する。感情、歩き方、子ども、家族、恋愛、結婚、食生活など具体的な事象を例に、社会的変数から焦点を当てることで、そこに意外な視点を発見していく過程を紹介していく。

#### 到達目標

講義で紹介する「社会学的なもの見方」について理解し、そのように捉えることのメリット、デメリットなどについて考察できるようになること。

#### 授業計画表

##### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

##### 人間力／倫理に基づく行動力

#### 授業計画

1. 社会性とは① 感情と社会の規範
2. 社会性とは② ナンパ歩行と身体の規範
3. メディアと社会① ジェンダーと性別の捉え方
4. メディアと社会② 社会統計と印象の操作
5. メディアと社会③ 社会の医療化
6. メディアと社会④ 都市伝説と世間
7. 社会階層と社会① 恋愛結婚の受入れ
8. 社会階層と社会② 恋愛結婚と結婚戦略
9. 家族と社会① 高齢化社会のはじまり
10. 家族と社会② 高齢者の役割と居場所
11. 家族と社会③ 少子化社会とスウェーデン幻想
12. 家族と社会④ 児童虐待と育児不安
13. 社会と科学① 3歳児神話について
14. 社会と科学② 母子同室制と育児の知識
15. 社会と科学③ 食育とフードファディズム

#### 成績の評価

毎回のレポートを60%、期末のレポートを40%として評価する。

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

毎回のレポートについては、次回の講義で、解答例とレポートを開示する。  
 期末のレポートについては、成績発表後、解答例とレポートを開示する。

#### 自己学習

毎回の講義内容を、毎回のレポート等を利用して、整理しておくこと。

毎回の講義内容を応用できる具体例を、日頃の生活の中で色々と探してみることに。  
授業1コマにつき、2コマ(180分)相当の予習と復習を行うこと。

#### 履修上の注意

#### テキスト

毎回、プリントを配布する。

#### 参考資料

講義の中で、適宜、紹介する。

#### オフィスアワー

講義終了後、教室にて質問を受け付ける。

講義コード	2A420011
講義名	教育学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1206
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	選択

### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 北山 敏和	指定なし

### 担当教員（実務経験を有する資格）

北山 敏和

### 目的

「教育＝学校」と狭くとらえるのではなく、私たちの社会や生活のさまざまな場面、例えば家庭や保健医療の場で行われている教育的な営みにも注目し、教育の仕組み、歴史、さまざまな教育実践の形など、教育に関する基本的なことがらについて幅広く学ぶ。

また、仕事や生活など、これからの人生のさまざまな場面で活用できる、自分自身を高め伸ばして行く力、好ましい人間関係を作ってゆく力である「行動する力(＝ライフスキル)」についての基本を理解し、活用できるようにする。

学習はグループ活動とディスカッションを基本とし、受講者がそれぞれに持つ知識、経験、情報を共有することを通して、個人の能力だけではなく集団としての能力が高まることを体験的に学ぶ。

### 到達目標

- 1 教育の目的や方法、基本的な制度や仕組みが分かる
- 2 人間の「能力」と「教育」の関係が分かる
- 3 発達段階とその行動特性が分かる
- 4 行動する力＝ライフスキルと健康な社会の関係について分かる
- 5 ライフスキル使って自分の生活の質と仕事の質を改善向上させることが出来る

### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 人間力／倫理に基づく行動力

### 授業計画

1. 教育学で何を学ぶか(オリエンテーション)
2. 遊びと学習：自然な学びと組織的・計画的な学び
3. 教育の仕組みと教育制度：学校とは何か
4. 教育と能力：人間の能力の多様性
5. 学力とは何か：将来の生活、仕事に必要な学力について考える
6. 考える力と行動する力：私たちの人生と行動する力＝ライフスキル
7. 発達段階と教育(1)発達段階とは何か
8. 発達段階と教育(2)子どもの発達と行動特性
9. 発達段階と教育(3)思春期／青年期の発達と行動特性
10. 現代の教育問題(1)コミュニケーションと創造的思考
11. 現代の教育問題(2)自尊感情と自信
12. 教育と地域社会：社会参画と奉仕活動

- 13.ニーズに応じた教育：特別支援教育
- 14.教育と医療の協働：予防医学と健康教育
- 15.健康な社会と教育：ヘルス・エンパワーメント

#### 成績の評価

授業後のミニレポート50% 課題についてのレポート50%

毎授業後にミニレポートを提出し、授業期間の中間と終了時の2回、課題についてレポートを提出する。

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

レポート提出後に模範解答を開示する。

#### 自己学習

授業終了後、①何を学習したのか ②新しく獲得した知識、情報、スキルは何か ③学習したことを自分の将来の生活や職業の場でどのように生かすか の観点で振り返り、まとめること。また次時のテーマとして示されたことについて、自分の考えを用意しておくこと。

#### 履修上の注意

講義中心ではなく、グループ活動を基本としアクティブ・ラーニングで学習を展開するため、準備、後片づけを含め司会進行、記録、発表などの役割を分担し、積極的に自分の意見、考えを発表すること。

#### テキスト

必要な資料は配布する。

#### 参考資料

「よく分かる教育学原論」 (ミネルヴァ書房)

「育児の国際比較—子ども社会と親たち」 (日本放送出版協会)

「ライフスキル教育入門」 (風人社)

「ライフスキル教育入門」 (風人社)

「対訳21世紀に生きる君たちへ」 (朝日出版社) 司馬遼太郎

#### 研究室・授業用E-mail

質問等があれば E-mailで  
heisan.kitayama@nifty.com

講義コード	2A542011
講義名	鍼灸基礎実習Ⅲ（鍼灸応用 <sup>1</sup> ）
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A2-4101
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	必修

### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 鍋田 理恵	指定なし

### 担当教員（実務経験を有する資格）

鍋田理恵〔はり師・きゅう師〕  
 中吉隆之〔はり師・きゅう師〕

### 目的

1年次の鍼灸基礎実習Ⅰ・Ⅱの内容を踏まえ、鍼灸施術を‘どこに’‘どのように’行うかに重点を置く。また、上肢・下肢の刺鍼・施灸実習を行う。

### 到達目標

‘どこに’とは、‘経穴’である。授業計画に示す身体各部の経穴には、鍼灸臨床において使用頻度の高い経穴を選択し、その取穴の習得を、また‘どのように’では、安全で基本に忠実な技術の習得を目指す。

### 授業計画表

### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

### 専門知識／専門技術

### 授業計画

1. 鍼灸基本技術/刺鍼手技、肘関節部の経穴への鍼灸①
2. 肘関節部の経穴への鍼灸②
3. 手関節部・手部の経穴への鍼灸①
4. 手関節部・手部の経穴への鍼灸②
5. 前腕部の経穴への鍼灸①
6. 前腕部の経穴への鍼灸②
7. 膝関節部の経穴への鍼灸①・[講義：鍋田]‘鍼灸の有害事象と感染防止’
8. 膝関節部の経穴への鍼灸②
9. 足関節部・足部の経穴への鍼灸①・[講義：中吉]‘個々の有害事象の防止法’
10. 足関節部・足部の経穴への鍼灸②
11. 下腿部の経穴への鍼灸①
12. 下腿部の経穴への鍼灸②・実技試験1（片手鍼管操作・紙上施灸）
13. 実技試験2
14. 実技試験3
15. 実技試験4

### 成績の評価

基礎技術の到達度（10%）、実技試験（50%）および学科試験（40%）により総合的に評価する。

### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

- ・実技試験終了後、採点用紙を開示する。
- ・定期試験終了後に模範解答を開示する。
- ・成績発表後、採点後の定期試験答案を開示する。

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

#### テキスト

「鍼灸医療安全性ガイドライン」（医歯薬出版）

#### 参考資料

適宜紹介する。

#### オフィスアワー

鍋田：火曜日～金曜日の12：30～13：00（事前にメールをすること）

中吉：月曜日：16:20～17:00 水曜日、木曜日の12：30～13：00

（記載の曜日・時間帯以外でも可能であれば対応します。事前にメールなどで連絡をいただければ確実です。）

#### 研究室・授業用E-mail

鍋田：診療・研究棟4階 416研究室 2c@kansai.ac.jp

中吉：診療・研究棟4階 414研究室 nakayosi@kansai.ac.jp

講義コード	2A543011
講義名	鍼灸基礎実習Ⅳ（鍼灸応用 <sup>2</sup> ）
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A2-4101
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 鍋田 理恵	指定なし

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

鍋田 理恵〔はり師・きゅう師〕  
 中吉 隆之〔はり師・きゅう師〕  
 坂口 俊二〔はり師・きゅう師〕

#### 目的

1年次の鍼灸基礎実習Ⅰ・Ⅱ、2年前期の鍼灸基礎実習Ⅲの内容を踏まえ、鍼灸施術を‘どこに’‘どのように’行うかに重点を置く。  
 主に体幹部、頸部・顔面部・頭部の刺鍼・施灸実習を行う。また当該科目は、「キャリア教育科目」に指定されている。

#### 到達目標

‘どこに’とは、‘経穴’である。授業計画に示す身体各部の経穴には、鍼灸臨床において使用頻度の高い経穴を選択し、その取穴の習得を、また‘どのように’では、安全で基本に忠実な技術の習得を目指す。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／専門技術

#### 授業計画

- 1.身体各部への刺鍼・施灸の前期復習
- 2.背腰部の経穴への鍼灸①
- 3.背腰部の経穴への鍼灸②
- 4.腹部の経穴への鍼灸①・[講義：鍋田]‘鍼のひびき’
- 5.腹部の経穴への鍼灸②
- 6.前胸部の経穴への鍼灸①・[講義：中吉]‘刺鍼手技’
- 7.前胸部の経穴への鍼灸②
- 8.肩甲部の経穴への鍼灸①
- 9.肩甲部の経穴への鍼灸②
- 10.頸部の経穴への鍼灸
- 11.頭顔面部の経穴への鍼灸①・[講義：坂口]鍼灸治療における治療者-患者関係’[キャリア支援]
- 12.頭顔面部の経穴への鍼灸②
- 13.身体各部への刺鍼・施灸の総復習
- 14.実技試験1（片手鍼管操作・紙上施灸）
- 15.実技試験2

#### 成績の評価

実技試験（50%）および学科試験・国家試験対策模試※（50%）、により総合的に評価する。  
※国家試験対策模試-12月21日（土）10時～11時30分、解剖学、生理学、東洋医学概論、はり理論、きゅう理論

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

- ・実技試験終了後、採点用紙を開示する。
- ・定期試験終了後に模範解答を開示する。
- ・成績発表後、採点後の定期試験答案を開示する。

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

#### テキスト

「鍼灸医療安全性ガイドライン」（医歯薬出版）

#### 参考資料

適宜紹介する。

#### オフィスアワー

鍋田：火曜日～金曜日の12：30～13：00（事前にメールをすること）

中吉：月曜日：16:20～17:00 水曜日、木曜日の12：30～13：00

（記載の曜日・時間帯以外でも可能であれば対応します。事前にメールなどで連絡をいただければ確実です。）

#### 研究室・授業用E-mail

鍋田：診療・研究棟4階 416研究室 2c@kansai.ac.jp

中吉：診療・研究棟4階 414研究室 nakayosi@kansai.ac.jp

講義コード	2A544011
講義名	経穴学Ⅲ（要穴2）
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A2-2305
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	必修

**担当教員**

職種	氏名	所属
教員	◎ 谷 万喜子	指定なし

**担当教員（実務経験を有する資格）**

谷 万喜子〔はり師・きゅう師〕  
池藤 仁美〔はり師・きゅう師〕

**目的**

経穴学は鍼灸臨床を直接支える重要な科目であり、効果的な鍼灸施術を行うためには経穴を理解することが大切である。経穴学Ⅰ・Ⅱでの学習に続き、下肢・体幹前面に位置する経穴について講義・実習を行う。

**到達目標**

上肢・下肢・体幹に位置する経穴の部位を覚えて、取穴ができるようになる。

**授業計画表**

**ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー**

**専門知識／専門技術**

**授業計画**

1. 背部の経穴について（復習）
2. 前腕の経穴（要穴）について①
3. 前腕の経穴（要穴）について②
4. 上肢の経穴（要穴以外）について①
5. 上肢の経穴（要穴以外）について②
6. 中間試験①
7. 下腿陽経の経穴について①
8. 下腿陽経の経穴について②
9. 足部の経穴について①
10. 足部の経穴について②
11. 下腿陰経の経穴について①
12. 下腿陰経の経穴について②
13. 中間試験②
14. 大腿部の経穴について
15. 胸腹部の経穴について

**成績の評価**

中間試験、定期試験の結果で評価する。

**定期試験、レポート等に対するフィードバック**

定期試験終了後、模範解答を開示する。

## 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行なうこと。経穴学は、短期的な学修では身につかない。繰り返し勉強して覚える必要がある。予習・復習をしっかりと行うこと。

## テキスト

「新版 経絡経穴概論」（医道の日本社）

## 参考資料

「図解鍼灸実用経穴学」（医道の日本社）

「臨床経穴図」（医道の日本社）

「定本経穴図鑑」（主婦の友社）

「カラーアトラス 取穴法」（医歯薬出版）

## オフィスアワー

月曜日 12:30～13:00（谷）

金曜日 12:30～13:00（池藤）

## 研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階307研究室・tani@kansai.ac.jp（谷）

診療・研究棟3階教員室・ikefuji@kansai.ac.jp（池藤）

講義コード	2A545011
講義名	経穴学Ⅳ（要穴以外の経穴）
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A2-4101
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 鍋田 理恵	指定なし

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

鍋田 理恵〔はり師・きゅう師〕

池藤 仁美〔はり師・きゅう師〕

#### 目的

経穴学Ⅱ、経穴学Ⅲで学習した要穴以外の経穴について、講義、実習する。経穴に対する理解を深めるため、必要に応じて、所属経脈とは別の観点で、動脈拍動部の経穴、神経幹を触れられる経穴、背部や腹部で同じ高さに並ぶ経穴、臨床上汎用される経穴、といったグループに分けて指導する。

#### 到達目標

経穴の部位を覚えて取穴ができるようになる。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／専門技術

#### 授業計画

1. 肩上部、頸部、側頭部の経穴について①
2. 肩上部、頸部、側頭部の経穴について②
3. 顔面部の経穴について
4. 頭部の経穴について①
5. 頭部の経穴について②
6. 経外奇穴①
7. 経外奇穴②
8. 後期中間試験
9. 十五絡穴、四総穴、八総穴、八会穴、奇経八脈①
10. 十五絡穴、四総穴、八総穴、八会穴、奇経八脈②
11. 十五絡穴、四総穴、八総穴、八会穴、奇経八脈③
12. 動脈拍動部、神経刺激点、同音異穴①
13. 動脈拍動部、神経刺激点、同音異穴②
14. 動脈拍動部、神経刺激点、同音異穴③
15. 後期のまとめ（実習）

#### 成績の評価

定期試験の成績(80%)に、中間試験、小テスト(20%)を加味して評価する。

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

- ・中間試験・定期試験終了後に模範解答を開示する。

・成績発表後、採点後の定期試験答案を開示する。

## 自己学習

経穴学は、短期的な学習では身につかない。繰り返し勉強して覚える必要がある。予習・復習をしっかりと行うこと。

成績不良者を対象に随時補習を行う。

## テキスト

「新版 経絡経穴概論」(医道の日本社)

## 参考資料

「図解鍼灸実用経穴学」(医道の日本社)

「臨床経穴図」(医道の日本社)

「定本経穴図鑑」(主婦の友社)

「カラーアトラス 取穴法」(医歯薬出版)

## オフィスアワー

鍋田：火曜日・水曜日・木曜日・金曜日 12:30～13:00

池藤：金曜日 12:30～13:00

## 研究室・授業用E-mail

鍋田：診療・研究棟4階416研究室・2c@kansai.ac.jp

池藤：診療・研究棟3階教員室・ikefuji@kansai.ac.jp

講義コード	2A548011
講義名	鍼灸理学併用療法実習Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A2-2601
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 黒岩 共一	指定なし

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

黒岩 共一(あん摩・マッサージ・指圧師)

松浦 英世(あん摩・マッサージ・指圧師)

#### 目的

ツール・マッサージの基本、運動器慢性痛に対するトリガーポイント・ツールマッサージを学ぶ(黒岩)。

手技療法の基本、スポーツ領域に特化したスポーツ・マッサージ及び鍼灸との併用法について学ぶ(松浦)。

#### 到達目標

臨床、スポーツ分野で、後療法として一通りのマッサージができる。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門技術／実践力・対応力

#### 授業計画

##### <黒岩担当分>

1. トリガーポイントマッサージの基礎理論
2. 機械痛の視点から腰痛、坐骨神経痛の再検討
3. 腰痛、坐骨神経痛罹患構造特定のためのマーキングポイント
4. 腰痛、坐骨神経痛罹患構造の体表投影図描画実習1
5. 腰痛、坐骨神経痛罹患構造の体表投影図描画実習2
6. 腰痛のTPマッサージ：腰方形筋
7. 腰痛のTPマッサージ：腸肋筋1
8. 腰痛のTPマッサージ：腸肋筋2
9. 腰痛のTPマッサージ：多裂筋、大殿筋
10. 腰痛のTPマッサージ：中殿筋、小殿筋
11. 腰痛のTPマッサージ：大腰筋
12. 腰痛のTPマッサージ：総合
13. 坐骨神経痛のTPマッサージ 1 (殿部; 小・中殿筋、梨状筋)
14. 坐骨神経痛のTPマッサージ 2 (股関節前方; 小・中殿筋)
15. 実技試験

##### <松浦担当分>

1. あん摩、マッサージ、指圧その他手技療法の基本
2. 肩背、腰仙殿部の全身編スポーツマッサージ
3. 下肢の全身編スポーツマッサージ
4. 伸展法下肢編
5. 上肢の全身編スポーツマッサージ

6. 伸展法上肢・頸部編
7. 胸腹部（五臓六腑）のマッサージ
8. 手部、手関節前腕の関節編ｽﾎﾟｰﾂﾏｯｻｰｼﾞ
9. 肘部、肩関節の関節編ｽﾎﾟｰﾂﾏｯｻｰｼﾞ
10. 牽引性運動法（上肢編）
11. 足部、足関節の関節編ｽﾎﾟｰﾂﾏｯｻｰｼﾞ
12. 下腿部のｽﾎﾟｰﾂﾏｯｻｰｼﾞ
13. 膝関節、大腿部のｽﾎﾟｰﾂﾏｯｻｰｼﾞ
14. 牽引性運動法（下肢編）
15. 太極療法

#### 成績の評価

実技試験50%、レポート50%

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後に定期試験の答案を研究室にて開示する(黒岩)。

同様に、採点後のレポートを指定の連絡先(研究室・授業用E-mail欄に記載)にて開示する(松浦)。

#### 自己学習

授業1コマにつき45分相当の予習を行うこと。内容的には、実習で取り上げる筋、靭帯とそれらが付着する骨の解剖学、運動学を復習・記憶する。

#### テキスト

「ｽﾎﾟｰﾂ・ﾏｯｻｰｼﾞ」(関西運動器障害研究会)、配布プリント

#### 参考資料

「改訂第2版 骨格筋の形と触察法」(大峰閣)

「プロメテウス解剖学アトラス 総論/運動器系 第3版」(医学書院)

#### オフィスアワー

水曜 12:30-13:00

#### 研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階306研究室/ kuroiwa@kansai.ac.jp (黒岩)  
090-8757-7976 (松浦)

講義コード	2A549011
講義名	鍼灸理学併用療法実習Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A2-2602
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 黒岩 共一	指定なし

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

黒岩 共一(あん摩・マッサージ・指圧師)

松浦 英世(あん摩・マッサージ・指圧師)

#### 目的

ツール・マッサージの基本、運動器慢性疼痛に対するトリガーポイント・ツールマッサージを学ぶ(黒岩)。  
手技療法の基本、スポーツ領域に特化したスポーツ・マッサージ及び鍼灸との併用法について学ぶ(松浦)。

#### 到達目標

臨床・スポーツ分野で、後療法として一通りマッサージできる。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門技術／実践力・対応力

#### 授業計画

##### <黒岩分>

1. トリガーポイントマッサージの基礎理論
2. 機械痛の視点から腰痛、坐骨神経痛の再検討
3. 腰痛、坐骨神経痛罹患構造特定のためのマーキングポイント
4. 腰痛、坐骨神経痛罹患構造の体表投影図描画実習1
5. 腰痛、坐骨神経痛罹患構造の体表投影図描画実習2
6. 腰痛のTPマッサージ：腰方形筋
7. 腰痛のTPマッサージ：腸肋筋1
8. 腰痛のTPマッサージ：腸肋筋2
9. 腰痛のTPマッサージ：多裂筋、大殿筋
10. 腰痛のTPマッサージ：中殿筋、小殿筋
11. 腰痛のTPマッサージ：大腰筋
12. 腰痛のTPマッサージ：総合
13. 坐骨神経痛のTPマッサージ 1 (殿部; 小・中殿筋、梨状筋)
14. 坐骨神経痛のTPマッサージ 2 (股関節前方; 小・中殿筋)
15. 実技試験

##### <松浦分>

1. あん摩、マッサージ、指圧その他手技療法の基本
2. 肩背、腰仙殿部の全身編スポーツマッサージ
3. 下肢の全身編スポーツマッサージ
4. 伸展法下肢編
5. 上肢の全身編スポーツマッサージ

6. 伸展法上肢・頸部編
7. 胸腹部（五臓六腑）のマッサージ
8. 手部、手関節前腕の関節編スポーツマッサージ
9. 肘部、肩関節の関節編スポーツマッサージ
10. 牽引性運動法（上肢編）
11. 足部、足関節の関節編スポーツマッサージ
12. 下腿部のスポーツマッサージ
13. 膝関節、大腿部のスポーツマッサージ
14. 牽引性運動法（下肢編）
15. 太極療法

#### 成績の評価

実技試験50%、レポート50%

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後に定期試験答案を研究室にて開示する(黒岩)。

同じく、採点したレポートを指定の連絡先(研究室・授業用E-mail欄に記載)にて開示する(松浦)。

#### 自己学習

授業1コマにつき45分相当の予習を行うこと。内容的には、実習で取り上げる筋、靭帯とそれらが付着する骨の解剖学、運動学を再学習・記憶する。

#### テキスト

「スポーツ・マッサージ」(関西運動器障害研究会)、配布プリント

#### 参考資料

「改訂第2版 骨格筋の形と触察法」(大峰閣)

「プロメテウス解剖学アトラス 総論/運動器系 第3版」(医学書院)

#### オフィスアワー

水曜 12:30-13:00

#### 研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階306研究室/ kuroiwa@kansai.ac.jp (黒岩)  
090-8757-7976 (松浦)